

令和6年度信州まつもと空港搭乗者アンケート調査
定期便(新千歳便・福岡便・神戸便)(令和6年12月～令和7年2月)における利用者の動向

- 1 実施期間 令和6年12月～令和7年2月(期間中の計90日間)
- 2 調査方法 ウェブアンケート
(信州まつもと空港搭乗待合室にアンケートフォームへアクセスする二次元コード付きのチラシを掲示)
- 3 調査対象 信州まつもと空港定期便の出発便の搭乗者
- 4 有効回収票数 合計 627票

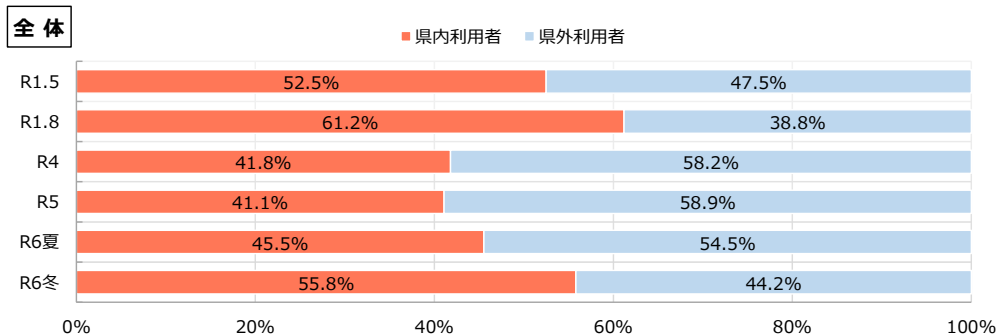
福岡便(2便)	172票
新千歳便(2便)	118票
神戸便(2便)	337票
- 5 アンケート期間中の搭乗者数(利用率)

福岡便	19,895人(66.4%)
新千歳便	13,745人(83.2%)
神戸便	20,863人(69.4%)
- 6 その他
 - ・新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度及び3年度は調査なし
 - ・令和4年度から調査方法を聞き取り方式からウェブアンケート方式に変更
 - ・令和4年度の調査項目から神戸便(R1.10/27就航)を追加
 - ・令和6年度より夏期と冬期の2回の実施に変更

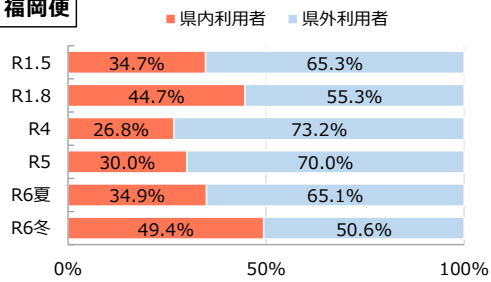
【県内・県外利用者の状況】

令和6年度冬期の定期便全体では、県内利用者の割合が55.8%、県外利用者の割合が44.2%となり、県内利用者の割合が高い結果となった。

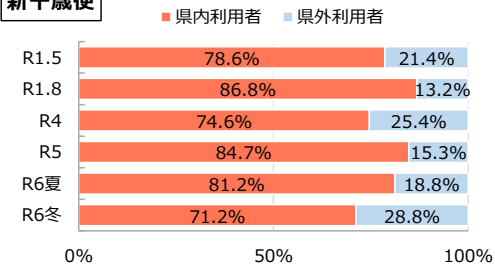
路線別では、**新千歳便、神戸便は、県内利用者の割合が高かった**。神戸便は夏期の調査では県外利用者の割合が高かったのに対して、今回の冬期の調査では逆の結果となった。県内利用者の割合が増加した要因としては、利用者が落ち込む冬季限定の支援策を実施したことが考えられる。



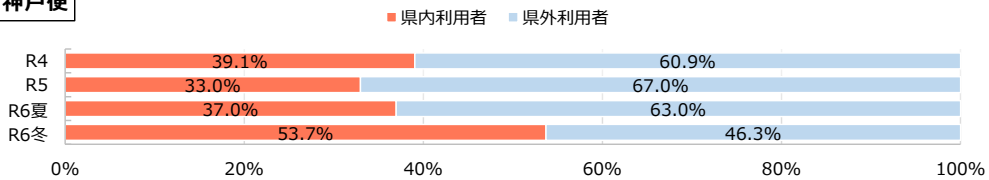
福岡便



新千歳便



神戸便

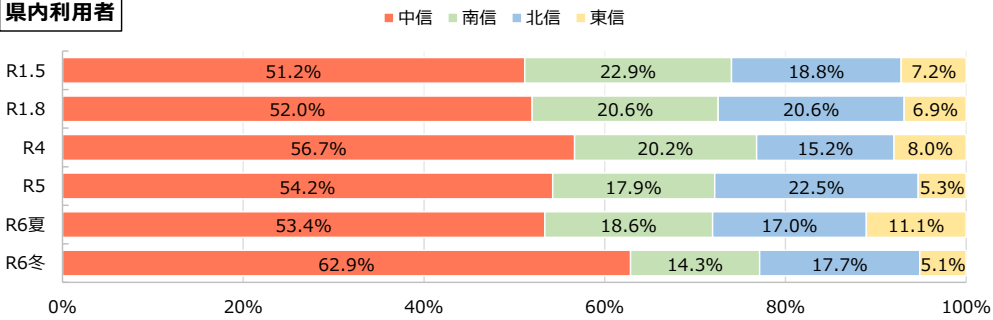


【利用者の居住地】

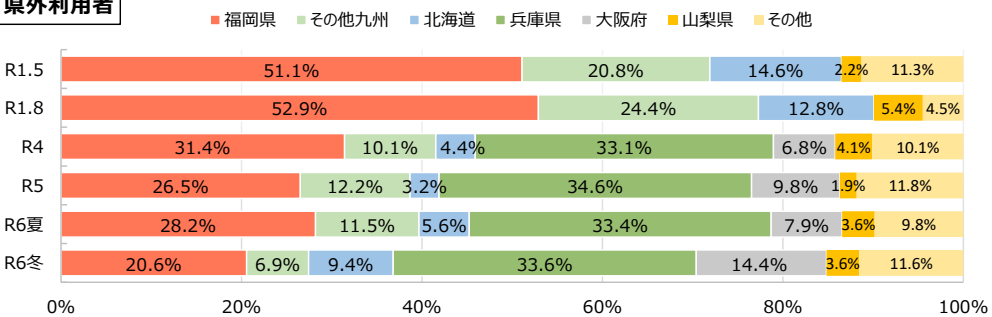
居住地別に見ると、**県内利用者では中信が62.9%、**続いて南信14.3%、北信17.7%、東信5.1%の順となっている。**中信の利用者割合は前年と比較すると9.5%の増加**となっており、信州まつもと空港地元利用促進協議会の支援策や松本市内のイベントでのPR（ジェット化開港30周年イベントや国宝松本城氷彫フェスティバル）により路線の認知度が向上したことが要因と考えられる。

また、**大阪府の利用者割合が7.9%から14.4%となり、6.5%増加**した。関西方面でのPRを強化し、神戸線の利用者が増加したことが要因と考えられる。

県内利用者



県外利用者

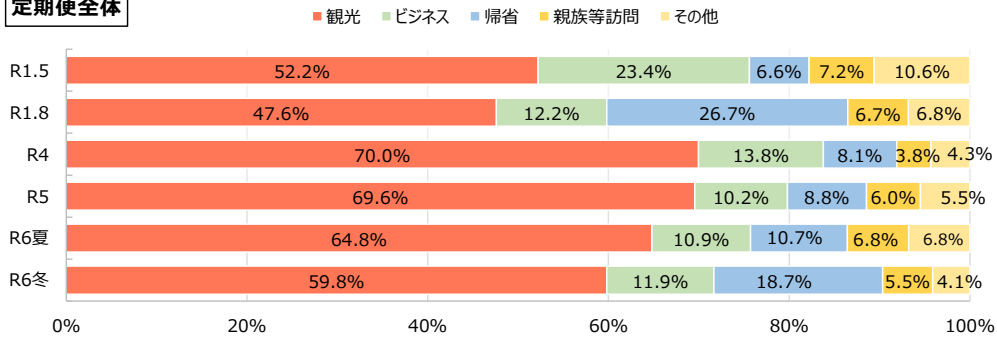


【旅行目的】

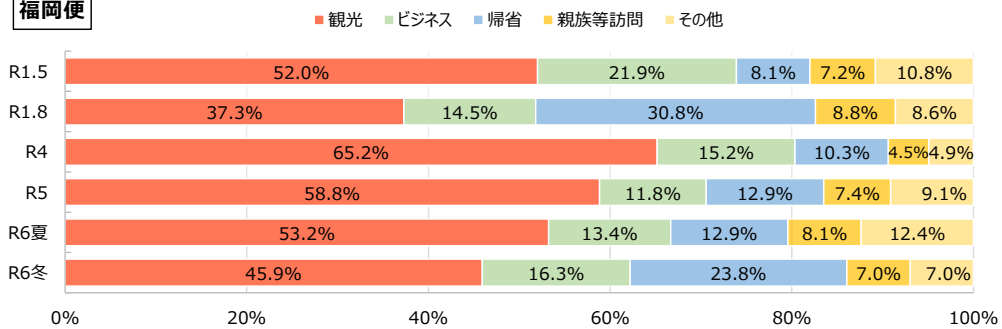
令和6年度における定期便全体の旅行目的では「観光」が59.8%となり、前回調査と比較すると5.0%の減少。一方で、「帰省」目的での利用が18.7%となり、**8.0%増加**した。各就航先でのPR活動等により飛行機移動の利便さが認知され、年末年始を含めた帰省の移動手段として利用が浸透してきたことが伺える。

路線別に見ると、福岡便の「帰省」の割合が12.9%から23.8%に増加し、**新千歳便の「帰省」の割合は6.0%から28.0%となり、22.0%増加**した。

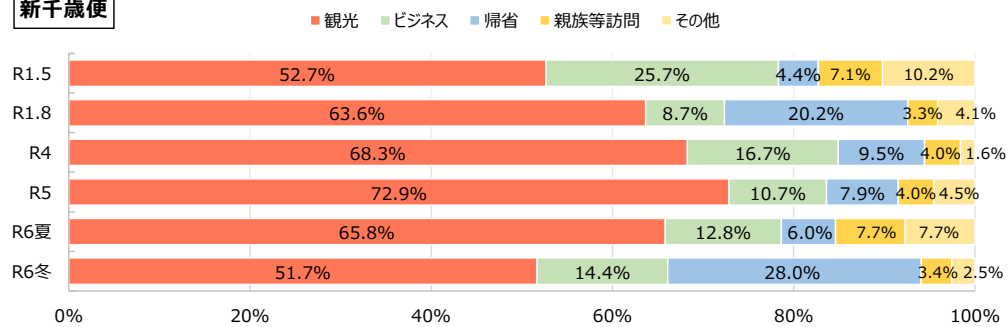
定期便全体



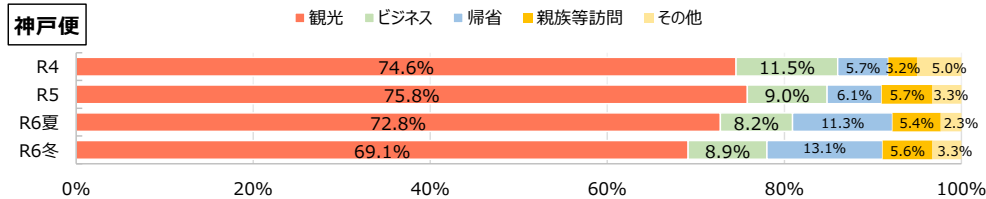
福岡便



新千歳便

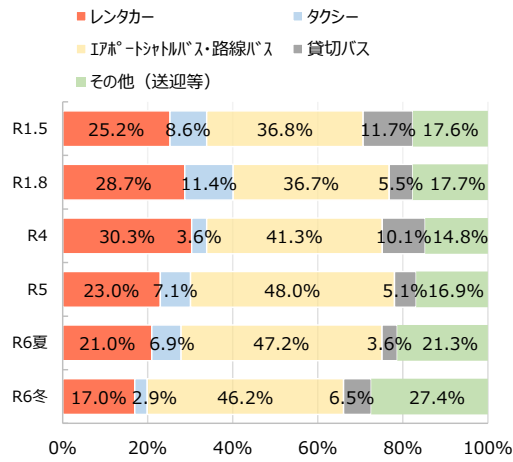


神戸便

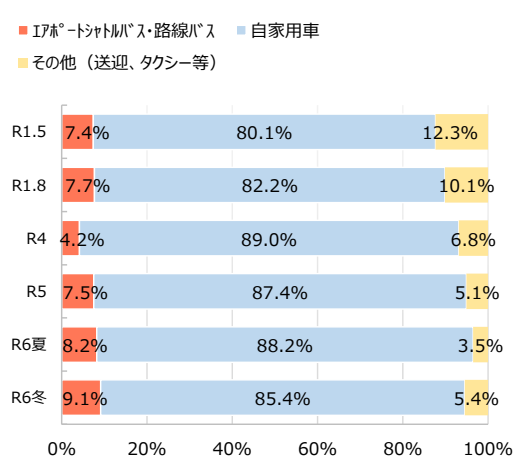


【参考(その他調査項目)】

空港への交通手段(県外利用者)



空港への交通手段(県内利用者)



利用者年齢層

